企画展「備前市近代耐火物の始まり」展示報告

令和７年２月１日から３月 30 日まで、企画展「備前市近代耐火物の始まり」を開催いたしました。

本展は、備前市における耐火物産業の黎明期に焦点を当て、その歴史的背景と地域産業としての発展について紹介したものです。

備前市では明治期から、特に三石と伊部において耐火物産業が発展しました。三石では、ロウ石採掘や石筆産業の副産物である石粉を活用し耐火レンガの製造を行いました。伊部では備前焼が衰退するなか、新たな取り組みとして耐火レンガ製造を始めました。この二つの地区を代表する三石耐火煉瓦株式会社と備前陶器株式会社の２社を、備前市における耐火物産業の先駆として取り上げました。

展示期間中に実施したギャラリートークでは、展示資料の解説に加え、当時の社会的背景や産業構造の変化に触れながら、備前市と耐火物産業との関わりについて紹介しました。

本企画展を通じ、多くの方に耐火物の歴史に触れていただく機会となりました。　（調査補助員　舩橋）

ギャラリートークの様子

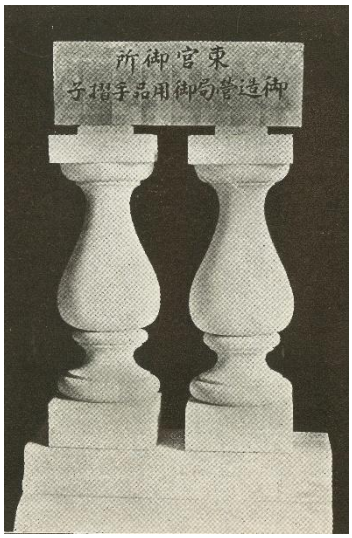
学芸員のコラム

備前は建築陶器の産地でもあった･･･②

最初に備前の装飾煉瓦が建築物に用いられた「三井銀行大阪支店」（M34）、「三井本館」（M35）の「軒蛇腹」以降、備前陶器㈱は装飾煉瓦の生産では当時、独走状態となり、様々な建築家がこれを用いて建築の美観を飾りました。現存するものでは「神戸地方裁判所」、「東宮御所」(現赤坂迎賓館)、「神宮徴古館」などがあり、空襲や震災を乗り越えて、竣工してから 100 年以上経過しています。

こうした建築は、優れた建築家の設計によるもので、備前の装飾煉瓦は当時日本を代表する建築家から重宝されました。横河民輔をはじめ、片山東熊（1854～1917）、辰野金吾（1854～1919）、河合浩蔵（1856～1934）、鈴木禎次（1870～1941）らは、建築の外壁や敷瓦として度々用いています。中でも備前陶器㈱の「擬花崗煉瓦」は、石材より軽く、壁体の重量を軽量化し、また耐火力も認められることから、擬石煉瓦では先駆をなしたのでした。

（学芸員　山内）



東宮御所（現赤坂迎賓館）に用いられた備前陶器の手摺子

写真（備前陶器㈱『作業案内』、個人蔵）

〒705－0022 岡山県備前市東片上 385　TEL/FAX　0869―64―4428
https://www.city.bizen.okayama.jp/site/rekimin/
開館時間/9：00～16：30
休館日/毎週月曜日・祝日の翌日　入館料/無料

備前市歴史民俗資料館　れきみんだより　No. 7
発行日：令和7年12月
編集･発行：備前市歴史民俗資料館